

第66回国民体育大会中国ブロック大会バスケットボール競技

日 時	2011年8月14日(日)		成年男子 リーグ戦
会場名	桃太郎アリーナ		(A)コート
岡山県 73		$\left\{ \begin{array}{l} 15 \text{ — } 10 \\ 19 \text{ — } 20 \\ 22 \text{ — } 17 \\ 17 \text{ — } 10 \end{array} \right\}$	57 広島県
審判名	主 審	松本 隆志	副 審 大山 直輝

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
佐藤 朋信	4	3	1			4	藤原 良晃	4	4		2		4
渡邊 大樹	5	8		4		3	廣本 純一	5	8		3	2	2
芳上 卓	6	0					高橋 宏実	6	2		1		
辻本 雅敏	7	4		1	2	1	北本 幹雄	7	13	1	5		3
伊藤 実希	8	2			2	3	今谷 祥吾	8	0				1
橋口 和史	9	2		1			鎮西 正貴	9	11		5	1	2
納谷 幸二	10	8		3	2	1	濱田 和明	10	2		1		2
三村 健夫	11	0				3	佐藤 洋輔	11	0				1
木村 晋輔	12	12		5	2	1	山根 佑太	12	2		1		4
山口 時生	13	6		3		1	徳富 斗雷	13	0				
竹原 康広	14	15	1	6		1	上野 達郎	14	1			1	1
山野 俊介	15	13		3	7	2	岡崎 修司	15	14	1	3	5	3
合 計		73	6	52	15	20	合 計		57	6	42	9	23

戦 評

1Q 岡山#15のジャンプシュートで先制。岡山は堅守で残4:10まで広島の得点を2点に抑える。その間、岡山はインサイドを中心に着々と得点を重ね岡山11-2広島と9点差となる。広島は流れを変えるべくタイムアウトと取る。これをきっかけに広島は#15のカウント3Pなどで、じわりじわりと得点を重ねる。岡山15-10広島となったところで1Q終了。

2Q 出だしは1Qの流れを受け、広島が残5:10の時点で岡山23-20広島の3点差まで詰め寄る。岡山もメンバーチェンジなどで広島に傾きかけた流れを取り戻し、残3:40には岡山30-20広島と、得点差を2桁とする。しかし、岡山のファールトラブルやターンオーバーなどからの得点で、岡山34-30広島の4点差まで詰め寄り2Q終了。

3Q 立ち上がり早々、広島は#15の連続得点などで広島37-36岡山と逆転に成功。岡山はここでタイムアウト。その後、岡山は#4の3P、#10の連続得点、広島は#5、#7の活躍により、追いつ追われつの展開となる。残3:45から岡山#14の9連続得点などで、3Qが終わってみれば岡山56-47広島となっていた。

4Q 開始直後、広島#9のジャンプシュートの得点から反撃を試みるも、岡山#12、#14のアウトサイドシュートが効果的に決まり、徐々に点差が開き始める。広島は疲れも見え始め、ファールトラブルなどで思うように得点が伸びない。岡山がゲーム時間を有効に使い、岡山73-57広島と16点差をつけ試合終了。本大会出場を決めた。

第66回国民体育大会中国ブロック大会バスケットボール競技

日時	2011年8月14日(日)		成年女子	リーグ戦
会場名	桃太郎アリーナ		(B)コート	
岡山県		92	74 島根県	
		{	}	
		28 — 14		
		15 — 18		
		26 — 20		
		23 — 22		
審判名	主 審	竹内 智己	副 審	甲斐 清・高嶋憲彰

選手名	背番号	得点	3Pポイント	2Pポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3Pポイント	2Pポイント	フリースロー	ファウル
藤原 ころろ	4	2		1			岩田 佳子	4	4		1	2	4
田上 理賀	5	0					春日 里香	5	9		4	1	
川原 美幸	6	0					森山 育美	6	8	2	1		
丹下 真帆	7	0				1	横木 智加子	7	26	2	9	2	
高木 亜利沙	8	18	2	6		3	秦 あかね	8	9	1	2	2	1
豊浦 明香理	9	0				1	井原 麻友佳	9	4		2		1
菅野 千尋	10	25	2	9	1	3	前田 千春	10	2		1		2
榎谷 美涼	11	4		2		1	山野 聡子	11	12		2	8	1
濱田 梨愛	12	3	1			2	下邊 美穂	12	0				3
毛利 江李	13	23	6	2	1	3	安木 理子	13	0				
谷川 明穂	14	12	1	2	5		岸本 悠花	14	0				
三澤 里歩	15	5	1	1		1	荒木 まどか	15	0				
合 計		92	39	46	7	15	合 計		74	15	44	15	12

戦 評

両チームとも勝者が本国体出場権を得る大一番の試合となった。

1Q、両者ともにマンツーマンで始まる。島根の#7のジャンプショットにより先制、その後島根は#5のミドル、カットインバスカンにより岡山2-7島根とリードを奪う。岡山はやや硬さが見られ、ミスもあったが#14のフリースローによる4連続得点で徐々に挽回し#15の速攻により逆転すると続けざまに#8#14が速攻を決め、その間島根は#4が3つめのファウルを犯し交代となる。リズムにのる岡山はその後#14、#10がドライブを次々と決め、終了間際#10がブザービーターの3Pを決め、岡山28-14島根で終了。

2Qになっても岡山は#8のドライブ、#13の3Pとたたみかけるが、島根も#7がゴール下を頑張り、#13も3Pと応酬。その後岡山は#10や#8のドライブや#13の3Pと次々と決め、一時リードをひろげたかに見えたがゴール下を落とすなど流れがやや悪くなり、その間島根#7のジャンプショットや#11のドライブなどにより岡山43-29島根と点差を縮められ、岡山タイムアウト後も島根は#8が3Pを決め岡山43-32島根と島根がやや盛り返して終了。

3Qになり岡山は#13が速攻や3Pを3本決めるなどしてリズムよく攻撃するが島根も#7がゴール下をよく頑張り応戦する。岡山はタイムアウト後#8の3Pや#10の速攻、カットインにより得点を伸ばし、岡山69-52島根で終了。

4Qになり岡山は#10、#15、#13が3Pを決めるなどして得点を伸ばす。島根はディフェンスをオールコートに広げプレッシャーをかけるが得点が取れず島根は残り5分45秒タイムアウト後ハーフでも激しい当たりでディフェンスを展開するが岡山は落ち着いてボールをまわし#8の3Pや#10のゴール下バスカンで対抗。85-65とし、岡山残り2分44秒でタイムアウト。島根はディフェンスをゾーンプレスに切り替えるも点差は縮まらず岡山は控えメンバーを出し、#11がゴール下、ドライブを決め、#4も速攻レイアップを決め、ベンチが盛り上がった。最後は92-74で岡山が逃げ切り、本国体出場権を獲得した。